

福井県と囲碁（2）新型コロナウイルス禍下に於ける2020年福井県囲碁界の軌跡について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 一郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/00028617

－サロン－福井県と囲碁(2)新型コロナウイルス禍下に於ける 2020年福井県囲碁界の軌跡について

Fukui Prefecture and IGO (2) Review on the Fukui Prefecture Amateur IGO
World in 2020 under the influence of COVID-19

高橋 一朗*
(福井大学 工学部 物質・生命化学科)

1. はじめに

本 2020 年度前期、筆者は「福井県と囲碁」と題する講義を本学、共通教育の歴史文化理解分野で新規に開講した。これは、昨年度来の筆者の福井県囲碁界に於けるいろいろな活動が、ここ数年続けている本学・地域環境教育研究センターの AOSSA 出張講義や、昨年本誌に掲載していただいた論説¹⁾と相俟って福井大学内で認識されたことと、歴史文化理解分野で、まとまった受講学生数を擁する講義の出現を期待していたことがマッチして、実現したものである。

開講 OK の連絡を受けたのは 2 月初めのことであった。準備を進めるうちに、新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍）の襲来があり、更に、遠隔方式での準備が必要となった。年 1 回だけ担当する AOSSA 出張講義とは異なり、15 回連続の講義であるため、中々大変であったが、定員一杯の受講登録があったことに加え、受講者が、初めて囲碁というゲームの持つ面白さと広がりを実感できた、という手ごたえを、メールのやり取りを通じ、諸所で強く感じ取ることができたのは、大変うれしかった。

残念だったのは、新規科目ということもあり、遠隔方式のうちでは最もシンプルな「オンデマンド」で開講したため、受講者相互の練習対局が殆ど行い得なかったことと、コロナ禍のため、一部予定していた外部講師の人たちとの連携が実現し得なかったことである。しかしながら、この 2 点を除けば、講義の「型」を作り得たことは間違いなく、今年度、至らなかった点については速やかに改良して行きたいと思う。お力添えいただいた、関係者の皆さまには、この場を借りてお礼を申し上げます。

一方、福井県内の囲碁大会は、コロナ禍のあおりを受け、ほとんどが延期・中止に追い込まれるという、壊滅的な打撃を被った。殊に、多くの囲碁ファンが楽しみにしていた、1 年の掉尾を飾る「県団体戦」（11 月 22 日に予定、福井新聞社主催）のまさかの中止が早々と決定したのは衝撃的であった。そこで、本稿では、コロナ禍による翻弄と関係者の努力の軌跡を記録すると共に、開催された数少ない大会（筆者が昨年優勝した県最強位戦を含む）についても触れることとしたい。

本題に入る前に、福井県囲碁協会から今年の初めに配布された県囲碁大会の年間予定表（表 1）と、本日（9 月 10 日）までの変化を記した筆者の手許のメモ（表 2）を対比し見開きで掲げておく。

表 2 で大会名が「網掛け」してあるものが、延期もあったが最終的に中止になった大会である。
新型コロナウイルスの凄まじさに脱帽！

2. 背景

時事問題を取り扱うことは筆者の柄ではないが、囲碁大会が壊滅した背景を掴んでおくことは論考には不可欠なので、ここで取り上げておくことにする。読者の諸兄諸姉のご容喙（ようかい）をお願いしたい。毎年恒例となっている観光地のインバウンド、春節（旧正月）の休みに合わせた大量の中国人観光客来日があり、それと雁行するかのよう、武漢でのコロナ感染拡大のニュースが報じられ

(キーワード：キーワード：囲碁、福井、コロナ禍)

Ichiro Takahashi

(Faculty of Engineering, department of Material Sciences and Biotechnology, University of Fukui, Fukui, 910-8507)

ようになった1月末、日本国内で最初のコロナ陽性者が確認された。しかし、イベント等への影響は、この時点では皆無であった。

2月上旬にはクルーズ船客の大量感染が起きた。人道的立場からクルーズ船の寄港を認めた日本政

表1

令和2年 福井県囲碁大会 年間予定表

地区	選抜	期日	曜日	大会名	回	開催会場	主催者				全国大会
							連合	福新	県福	他	
	○	1/2	1木	福井シリーズ	43	福井棋院					福棋
	○	2/2	1日	フォーチュンストーン杯大会	8	うるわし荘	○				日本棋院支部石川県連合会
	○	/9	2日	囲碁選抜戦福井カップ	21	福井新聞社		○			
		/16	3日	県アマ女性囲碁大会	15	福井棋院	○	○			3/7・8
坂井		3/1	1日	県アマ名人戦	43	大関コミュ			○		
		/15	3日	県アマ最強位戦予選	42	福井棋院			○		
		/22	4日	県アマ棋聖戦	6	市民プラザ武生	○				JR 武生駅隣(平和堂3F)駐車場無料
福井		/29	5日	県アマ名人戦	43	ベルカルチャー			○		
	○	4/5	1日	棋聖三番勝負第1局	5		○				丹南ケーブル
	○	/12	2日	県アマ最強位戦本戦1	42	福井新聞社		○			
		/26	4日	朝日アマ名人戦・県予選	57	福井棋院				朝日	7/4・5
	○	5/3	1日	県アマ最強位戦本戦2	42	福井新聞社		○			
		/10	2日	棋聖三番勝負第2局	5		○				丹南ケーブル
		/17	3日	高校文化祭(春季)	43	福井棋院				高連	7/18・19
		/23	4土	県支部対抗戦	37	福井新聞社			○		
奥越		/31	5日	県アマ名人戦	43	勝山教育会館	○				
南越		6/7	1日	県アマ名人戦	43	柳壮			○		
	○	/14	2日	県アマ最強位戦本戦3	42	福井新聞社		○			
		/21	3日	県少年少女大会	42	福井棋院		○			7/25・26
		/27	4土	小中学校団体戦	17	福井棋院	○			産経	7/25・26
		/28	4日	アマ本因坊福井県予戦	66	福井棋院	○				8/15・16
嶺南		7/5	1日	県アマ名人戦	43	敦賀西公民館			○		
		/26	4日	県民囲碁まつり・世界アマ県予選	43	福井新聞社	○				9/12・13
		8/1	1土	級位者認定大会	13	福井棋院	○	○			
		/9	2日	県アマ本因坊予選	69	福井棋院			○		
	○	/15	3土	県アマ本因坊挑戦者決定戦	69	福井棋院			○		
	○	/23	4日	県アマ名人戦県大会	43	福井棋院			○		
		/30	5日	県アマ王座戦	50	福井新聞社			○		
	○	9/20	3日	2020 福井県健康長寿祭			○				福井県社会福祉協議会
		/27	4日	赤旗囲碁地区大会	26	福井棋院				赤旗	
		/27	4日	嶺南アマ囲碁大会	36	若狭町シルバー		○			
	○	/2627	4土日	名人戦三番勝負	43	福井棋院			○		
		10/3	1土	くらしき吉備真備杯子供棋聖戦	10	福井棋院	○				12/5・6
	○	/11	2日	赤旗県大会	26	福井棋院				赤旗	
		/18	3日	高校文化祭(秋季)	40	福井棋院				高連	
	○	/2425	4土日	県アマ本因坊三番勝負	69	福井新聞社			○		
		11/8	2日	福井市公民館囲碁大会	27	福井新聞社	○				福井市公民館囲碁クラブ連合会
		/22	4日	福井県囲碁団体戦	43	福井新聞社	○				
		上旬		国際囲碁交流	5		○				福井県文化振興課

府を称賛する意見もあったが、多くは、不適切な医療活動を指弾するものであった。同時期、諸外国でコロナ感染が拡大し始めると、日本の中国人観光客に対する規制の緩さ(中国全土を入国禁止としない)に対する批判が強く出され、東京五輪2020開催を危惧する声が挙がり始めた。しかしながら、

表2

令和2年 福井県囲碁大会 年間予定表

地区	選抜	期日	曜日	大会名	回	開催会場	主催者				全国大会
							連合	福新	県福	他	
	○	1/2	1木	福井シリーズ	43	福井棋院				福棋	
	○	2/2	1日	フォーチュンストーン杯大会	8	うるわし荘	○				日本棋院支部石川県連合会
	○	2/9	2日	囲碁選抜戦福井カップ	21	福井新聞社		○			14/5
		/16	3日	県アマ女性囲碁大会	15	福井棋院	○	○			3/7・8 延期
坂井	○	3/1	1日	県アマ名人戦	✓→X(4/5)	大関コミュ			○		
	○	3/15	3日	県アマ最強位戦予選	延期(6/1)	福井棋院		○			
		/22	4日	県アマ棋聖戦	X(7/9)	市民プラザ武生	○				JR 武生駅隣(平和堂3F)駐車場無料
福井	○	3/29	5日	県アマ名人戦	✓→X(4/5)	ベルカルチャー			○		
	○	4/5	1日	棋聖三番勝負第1局	X(7/9)		○				丹南ケーブル
	○	4/12	2日	県アマ最強位戦本戦1	延期(6/1)	福井新聞社		○			
		/26	4日	朝日アマ名人戦・県予選	X(3/3)	福井棋院				朝日	7/4・5 中止
	○	5/3	1日	県アマ最強位戦本戦2	延期(6/1)	福井新聞社		○			
		/10	2日	棋聖三番勝負第2局	(7/9)		○				丹南ケーブル
		/17	3日	高校文化祭(春季)	延期	福井棋院				高連	7/18・19 中止
		/23	4土	県支部対抗戦	延期 X(6/9)	福井新聞社			○		
奥越		/31	5日	県アマ名人戦	X(4/5)	勝山教育会館	○				
南越		6/7	1日	県アマ名人戦	X(4/5)	柳社			○		
	○	6/14	2日	県アマ最強位戦本戦3	延期(6/1)	福井新聞社		○			
		/21	3日	県少年少女大会	X(5/1)	福井棋院		○			7/25-26 中止
		/27	4土	小中学校団体戦	X(4/8)	福井棋院	○			産経	7/25-26 中止
		/28	4日	アマ本因坊福井県予戦	X(4/10)	福井棋院	○				8/15・16 中止
嶺南		7/5	1日	県アマ名人戦	X(4/5)	敦賀西公民館			○		
		/26	4日	県民囲碁まつり・世界アマ県予選	延期	福井新聞社	○				9/12・13 中止
		8/1	1土	級位者認定大会		福井棋院	○	○			
	○	8/9	2日	県アマ本因坊予選		福井棋院		○			
		/15	3土	県アマ本因坊挑戦者決定戦		福井棋院		○			
	○	8/23	4日	県アマ名人戦県大会	X(4/5)	福井棋院			○		
		8/30	5日	県アマ王座戦		福井新聞社		○			
	○	9/20	3日	2020 福井県健康長寿祭	X(6/30)		○				福井県社会福祉協議会
		/27	4日	赤旗囲碁地区大会	X(4/5)	福井棋院				赤旗	
		/27	4日	嶺南アマ囲碁大会	X(7/16)	若狭町シルバー		○			
	○	9/26/27	4土日	名人戦三番勝負	X(4/5)	福井棋院			○		
		10/3	1土	くらしき吉備真備杯子供棋聖戦	X(4/10)	福井棋院	○				12/5・6 中止
	○	10/11	2日	赤旗県大会	X(4/5)	福井棋院				赤旗	中止
		/18	3日	高校文化祭(秋季)		福井棋院				高連	
	○	10/24/25	4土日	県アマ本因坊三番勝負		福井新聞社		○			(延期:1/3)
		11/8	2日	福井市公民館囲碁大会	X(6/9)	福井新聞社	○				福井市公民館囲碁クラブ連合会
		/22	4日	福井県囲碁団体戦	X(9/1)	福井新聞社	○				
		上旬		国際囲碁交流			○				福井県文化振興課

国内のコロナ陽性確認者数はまだ少なく（2月20日の時点で80人）、²⁾ 日本国内では、これが全人類に対する21世紀最大の「受難」への入口であることを、まだ実感し得ないでいた。

牧歌的状况が一変したのは、2月半ば国内で初の死者が出たのに続き、北海道でクラスターの発生が確認されたことによる（2月28日には北海道独自の緊急事態宣言）。²⁾ 連日連夜、政府とマスコミによる、標語「三密」や「不要不急」をはじめとする「バイアス」が掛かり続けたことと、国民の非常時における「ゼロリスク」志向がリンクして、「自粛」の大合唱が日本全国に巻き起こった。人間誰しも「正義」の側に立っていたいと感じるのは、自然な人情というものである。致命的であったのは、自分が要らないと感じたものであっても、他人にとっては不可欠かも知れない、という視点が欠けていた点にある。一般に、趣味というものは、他人から見たら不要不急かも知れないが、本人にとっては、仕事や家庭を円滑に営むための潤滑油として大事であることが多い。平時なら素直に受け入れられることが、非常時にその趣味を持たない（或は技量の劣る）者からは嫉視されバッシングの対象となってしまう。結果として、外から人が集まる催しに対しては、「〇〇すれば何とか開催できるのでは」という姿勢が影を潜め、「××だからダメ」という対応が幅を利かすこととなり、イベントや会合が、当事者の都合などお構いなしに切り捨てられて行く流れができた。クラシック音楽界では2月23日に予定されていた「5,000人の第9」が急遽中止されたのが発端で、数か月に亘り、一切のコンサートが開けなくなったことは記憶に新しい。³⁾ この流れは、囲碁界でも例外ではなかった。

3. コロナ禍下の福井県囲碁界の動向（1）延期の始まり

筆者が福井県の囲碁大会に常時参加し始めた2006年頃は、雪国ということもあって、1月と2月の選抜大会（福井シリーズと福井カップ、出場者は前年の成績により主催者が選抜）が終わると、4月まで一般の大会が無かった。しかしながら、その後、暖冬（2018年は例外！）が定着するにつれて、「早く打ちたい」というファンの声が高くなり、全国大会が3月にシフトした女流の県大会（実は中断していた）が2月に創設されたのに続き、県名人戦（日刊県民福井主催）の地区予選（坂井地区）が2月下旬～3月初旬に配置され、それまでと比べ、ほぼひと月分繰り上がった形で日程が組まれるようになった。⁴⁾

2013年からフォーチュンストーン杯（フォーチュンは福井の「福」、ストーンは石川の「石」で、要は福井県と石川県の対抗戦の意味）が新設されたのも暖冬の賜物と言えるだろう。これは、6つのクラスで3名ずつ、合計18名ずつの選手が各クラスで3局ずつ対局し、全54局の勝敗で優勝を争うものであるが、今年（2月2日）の第8回は、福井県が29対25の成績で5年ぶりに優勝を果たした。筆者は日本棋院福井県支部連合会の会長であることの「役得」により、笑顔を浮かべて大きなトロフィーを抱かせてもらったのであるが、この時にはコロナ禍で年間予定表（表1）がズタズタになる運命など、知る由もなかった。⁵⁾

さて、2月16日に開催された女流アマ県大会は、1年間続く、福井県内の一般大会の開幕を告げるものである。全国大会（日本棋院主催）は3月14日～15日に予定されていたが、県大会の翌週、コロナ禍の影響により延期が発表され、結局6月2日に中止が決まった。⁶⁾ 2月中に各都道府県で予選が開催され県代表が決まっている以上、いきなり中止には出来ずいったん延期としたものの、開催地（日本棋院本院のある東京都千代田区市ヶ谷）への往復が心配なく行える状況に至らず、中止の止むなきに至ったものと考えられる。

続く3月は、8日以外の4回の日曜日全てに、大会が予定されていた。即ち、1日と29日は県名人戦の地区予選が2つ、15日は県最強位戦の予選、22日は郷土棋士杯県棋聖戦（クラス別）であったが、上記の情勢を受けて、全てが延期となった。^{7) 8)} 15日の県最強位戦の予選は、5名を選抜し、前年シードの5名（筆者を含む）と合計10名の総当たりリーグ戦を構成するために不可欠のものである。当然ながら、リーグ戦（3局ずつ3日間）に予定されていた日程（4月12日、5月3日、6月14日）のうち、4月12日も自動的に延期となった。福井大学でも、就職説明会が急遽中止となり、学位記授与式の縮小や謝恩会の自粛の決定など、行事への影響が出始めた時期に当たる。

ここで、郷土棋士杯県棋聖戦について少しだけ紹介しておきたい。これは、2015年に創設された新しい棋戦であるが、福井県出身のプロ棋士・小川誠子7段（昨2019年急逝）を顕彰する目的で棋戦名が決められたと、以前、酒井哲夫氏（元福井市長、アマ5段）から伺ったことある。これは、A級～E級に分かれて戦うものであり、B級～E級の優勝者は各級の棋聖位を獲得する。A級の優勝者は、引き続き、タイトル保持者（丸吉寿史氏）との3番勝負を打つことになる。この棋戦は、丹南地区（鯖江市、越前市を含む）の囲碁普及を兼ねていて、3番勝負も丹南地区内で行われる点に特色がある。なお、筆者は2017年に挑戦者になったものの、0-2で敗退している。

さて、延期になった4大会のうち、県名人戦の地区予選2大会は、年間予定で空いていた7月12日と19日に代替開催することがすぐに決まった。⁷⁾ 県最強位戦は、予選を含めて4日間、県棋聖戦は、挑戦手合を含めて3日間ないし4日間の日程を確保する必要があるものの、片や「掛け値なしの県ナンバーワン」を決める棋戦（前報で紹介済み¹⁾）、片や「郷土色満載」の棋戦と、主催の福井新聞社が力こぶを入れている大会である。福井県内では3月18日にコロナ陽性者が初めて確認された⁹⁾が、まだ差し迫った空気は無く、上記の2大会は代替日程がすぐに決まって発表されることを、誰もが疑わなかった。ところが……

4. コロナ禍下の福井県囲碁界の動向（２）一般の大会中止の続発

激震が走ったのは、東京五輪2020の1年延期が決まった次の週、3月31日のことであった。朝日新聞社がアマ名人戦全国大会の中止を発表し、これに伴い県大会も中止されることとなった。⁵⁾ 2011年の東日本大震災の時以来の出来事である。言うまでもないことだが、全国紙の主催する全国大会は、各都道府県の県大会（予選）が公平に開催できることが前提となるから、9年前の大震災の時には、被害が甚大だった東北6県での県大会開催が困難だったことが理由となった。⁴⁾ 今回のコロナ禍の場合は、諸外国に比べると日本国内のコロナ陽性確認数はまだ少なかったとはいえ、今後の感染の広がりによっては、県大会開催が困難な都道府県の発生を否定できないことが、中止の理由と考えられる。

同時期、福井大学では、関西圏の大学発クラスターの報道を受け、4月6日の入学式が中止となり、4月9日が初日だった新学期も22日まで延期が決まった。後者は結局5月11日まで再度延期され、講義はすべて遠隔方式となり、資料作りに追われる日々を過ごすことになったのは周知の通りである。大都市部を中心としたコロナ陽性確認数の急増を受けて、7都府県に「緊急事態宣言」が発動された4月8日、「研究室で3密」と題する記事が福井新聞の人気コラム「ふくい特捜班」に掲載されたのを受け、工学部の研究室は4月9日を限りに閉鎖された¹⁰⁾（6月1日に条件付きで再開）。全国規模での緊急事態宣言が不可避の状況の下、4月10日に毎日新聞社、同15日にしんぶん赤旗から、先に朝日新聞社からあったと同様の、全国大会・県大会の中止が発表された。⁵⁾ 15日には更に、日刊県民福井の囲碁担当から、県名人戦の予選・本戦とも中止に決めた旨、筆者（この棋戦では過去3回挑戦者になっている）に電話連絡があった。これは、親会社である中日新聞社（プロ公式戦の一つである天元戦を主催）が上記他社と同様の判断を下した結果によるものと考えられる。

4月16日、遂に全国規模の「緊急事態宣言」が発動された。⁹⁾ これに呼応する形で、福井県でも、休業要請する施設を決定し発表したのであるが、¹¹⁾ そこには「囲碁・将棋教室」が含まれており、当然ながら、大会会場の手配は困難になった。加えてこの時期、福井県囲碁の総本山とも言うべき、福井新聞社大和田本社で異変が起きていた（7月に入ってから教えてもらった）。社内のsocial distances確保とテレワーク環境整備のあおりで、過去の囲碁大会で使うことの多かった、1F、7F、8Fの会議室が使えなくなった。緊急事態宣言は5月13日に福井県を含む39県で解除となったが、47都道府県すべてでの解除は5月26日まで待たなければならなかった。²⁾ 再度の緊急事態宣言発動が懸念される空気の中、福井新聞社で開催される予定だった、世界アマ県予選（7月26日に予定）が全国大会中止に伴い取り止め（5月27日）となり、同日開催の「県民囲碁まつり」も中止された（5月31日）。⁵⁾ 後者は段級位認定大会も兼ねているので、開催が望ましかったのは確かであるが、コ

ロナ禍の先行きに見通しが立たない以上、止むを得なかったろう。

以上の経過により、6月までの福井県内の囲碁大会は壊滅状態となり、再開の目途は全く立たなくなってしまう。

ここで、筆者の周辺の動きについて少しばかり書いておくことにする。例年、福井大学祭に合わせて開催する「囲碁入門講座」が秋に延期（対面方式は中止）となった他、筆者が顧問を務める「学生囲碁部」と幹事を務める月例会「竜川会」は、大学内施設が使用できないため休止。わずかにメールやSNSで部員たちと連絡を取ったり、たまに会って短時間打ち合わせをしたりして、お互いの無事を確認し合うのが精一杯であった。

5. コロナ禍下の福井県囲碁界の動向（3）子供たちの大会も中止へ・・・

遡って、全国一斉休校がスタートしたのは4月2日のことである。²⁾これは結局その後、2ヶ月の長きにわたって続くこととなった。コロナ禍そのものの影響に加え、授業時間の確保のための夏休みの短縮や学校行事の中止による影響は、当然ながら、囲碁界にも押し寄せる所となった。

最初に影響を受けたのは団体戦である（三密）。小中学校団体戦（6月27日に予定）は、4月18日に全国大会・県大会とも中止が決まった。⁵⁾次いで、少年少女大会＝個人戦も、全国から人が集まることへの懸念から、5月11日に全国大会・県大会とも中止が決まった。⁵⁾いずれも全国規模の「緊急事態宣言」が発動の最中でもあったし、致し方なかったろう。また、時期がだいぶ後になるが、くらしき吉備真備杯子供棋聖戦（10月3日に予定）は、8月11日に全国大会・県大会とも中止が決まったが、⁵⁾いわゆるコロナ「第2波」の渦中であった上、学校の予定の逼迫が影響したのではなかろうか？

高校生の場合、「高校選手権戦」（筆者も大昔に出場）の他に、高校文化祭が春と秋に設けられている。これらは、特に3年生の場合、進学にせよ就職にせよ、部活からの「卒業」という大事な節目の催しであるが、今年の対象者に思いを全うさせることができなかつたのは、残念なことであった。高校選手権戦は中止、文化祭の春は延期（実質中止）となった上、全国高校総合文化祭では、囲碁を含め勝ち負けを争う種目は「遠隔だと不正の可能性がある」という理由から、競技が行われなかつたのである。¹²⁾何故ゆえ、高校野球のような交流戦ができなかつたのか？疑問が残った。

6. コロナ禍下の福井県囲碁界の動向（4）福井県囲碁協会の奮闘

福井県では4月28日に通算122人目のコロナ陽性者が確認されて以降7月12日まで、陽性者の確認が1人も無かつた⁹⁾ことで、世の中の空気が落ち着いて来た。これは、杉本知事をリーダーとする福井県の、各地域の特殊事情を踏まえながら濃厚接触者等を徹底的に追跡し、先回りしてクラスターの発生を潰す作戦が功を奏したものと評価されよう。囲碁界も6月に入り、ようやく、大会の再開方法を検討できる雰囲気になって来た。ここで前面に出て来たのが「福井県囲碁協会」である。

これまで、福井県内の囲碁大会の運営は、日本棋院福井県支部連合会（現在、筆者が会長を務める団体、以下、支部連合会）がお世話して来たのであるが、各支部で中心となって働いてきたメンバーが揃って高齢化し、新規メンバーの勧誘がはかばかしく行かなかつた結果、「マンパワー」が激減し、囲碁大会をこれまでのようにお世話することが難しくなつて来た。加えて、県囲碁ファンの中には、日本棋院の会員でない人（当然、支部には加入しない）も多い。そこで、昨2019年5月から6月にかけて、囲碁大会の開催を実質請け負う団体としての福井県囲碁協会（以下、協会）を新たに造り、支部連合会から業務委託する形で運営を行うことを提案し、日本棋院中部総本部（名古屋）の了解を得た上で、大会開催を続けて来ている。この「福井方式」は少子高齢化に悩む都道府県の良き指針となることを期待している。当面の課題は、日本棋院との間で、「会員」資格をどう調整するかであろう。筆者としても尽力したいと思う。

支部連合会と協会と、両方の役員に籍を置くメンバーが1人あるが、この方は筆者の所属する学科の昔の卒業生で、お互いに相談を受けることも多い。6月に聞いた所では、「福井新聞社としては、with コロナでの大会開催のための方法を探っている。挑戦手合いありの大会、無差別の大会、クラ

ス別の大会を1個ずつは開催したい、というのが基本方針」という話で、それから間もなく、7月以降開催される大会と方式が決められ、発表された。^{13、14)}

- 7月12日 県最強位戦の予選（5人を選抜）：従来通り
- 7月26日 県最強位戦の本選（10人でのトーナメント）：変更
- 8月1日 級位者認定大会（予選リーグ&トーナメント）：当初の予定通り
- 8月9日 県本因坊戦挑戦者決定戦予選（2敗者失格トーナメント）：当初の予定通り
- 8月15日 9日の予選で勝ち残った6人で挑戦者決定：当初の予定通り
- 8月30日 県王座戦（クラス別；予選リーグ&トーナメント）当初の予定通り

遂に囲碁大会が帰って来る！連絡を受けた時は、本当に感無量であった。コロナ禍の下、本業で激務が続く中を尽力し、再開に漕ぎ着けて下さった協会の皆様に、この場を借りてお礼を申し上げたい。

この他に、11月22日の県団体戦も「当初の予定通り」計画検討されたのであるが、会場確保と安全対策の問題から、9月1日に中止が決まった。残念ではあるが、来年は、他の多くの中止大会共々、開催できることを期待したい。

7. 第42期福井県囲碁最強位戦の報告

7.1 予選

7月12日、福井棋院で、昨年の筆者の論考¹⁾で紹介した方式に従って開催された。参加者は15名だったので、3名×5組に分かれて総当たりリーグを行い、各組の1位と2位が枠抜け（1勝1敗の3つどもえは無かったそうです）。引き続き、別の組の1位と2位が対戦し、勝者5名（岡崎、小高、齋藤（拓）、丸吉、山畑の各氏）が7月26日の本戦に進出した。¹⁵⁾

7.2 本戦

7月26日、福井新聞社の風の森ホールで開催された。参加者は、前年シード5名（高橋、三村、小垣内、西野、大久保）と、12日の予選勝者5名の合計10名のところ、西野氏が当日都合で不参加のため、これも前の論考で紹介した方式¹⁾に従い、代わりに大瀧氏（前年6位）が参加した。

本戦は、例年なら総当たりリーグ戦が行われるが、今年はコロナ禍を考慮し、大会を1日で終わらせるため、トーナメント方式で行われた。前年1位の高橋（筆者）と2位の三村氏は2回戦にシード。残り8名が籤引きを行い、1回戦・2回戦スタート各4名を決めた。1位～4位（準決勝進出者）が次期（リーグ戦）にシード。3・4位決定戦も行われた。

結果は以下の通りであった（○＝勝ち、●＝負け）：¹⁶⁾

- 1回戦： 大久保○－●小高、山畑 ○－●齋藤
- 2回戦： 高橋 ○－●大久保、丸吉○－●岡崎、小垣内○－●大瀧、○三村－●山畑
- 準決勝： 丸吉 ○－●高橋、小垣内○－●三村
- 決勝： 丸吉 ○－●小垣内
- 3・4位： 高橋 ○－●三村

優勝：丸吉、準優勝：小垣内、3位：高橋、4位、三村、ここまでが次期にシード。筆者としては、トーナメント準決勝で打ち過ぎで負けたのは残念でしたが、今年は打ただけで満足しないと罰が当たりますね！

8. その他の筆者参加した棋戦について

8.1 第68期県本因坊戦挑戦者決定予選（8月9日）

この棋戦は、福井県で最古のものである。行われるのは無差別級（総互先）のみで、例年、2敗者失格トーナメント方式で行われるものである（1敗者は敗者復活トーナメントに回り、2敗したら終了）。会場は福井棋院で、今年の参加者は21名。筆者は最初2連勝したもののそこから2連敗してしまい、1日目で敗退した（5年ぶり、残念）。¹⁷⁾ なお、勝ち残った6名（4勝2名と4勝1敗4名）は8月15日にトーナメントの続きを戦い、佐々木涼真氏が県本因坊挑戦者に決まった。（追記：11月3日、佐々木悠介さんを下して新本因坊に）¹⁸⁾

予選で特筆すべきことが1つある。それは、高校文化祭の出場予定者2名が出場したことである。

囲碁に限らないが、子供さんたちの大会が中止になった際、「君たちには未来がある」と励ます指導者は少なくないと思うが、これは、その大会の出場予定者全員に当てはまるとは限らない。団体で行う競技の場合、メンバーが足りなかったので出場できた（実力とは関係なく・・・）、というのは良く聞く話だが、個人を基準に見ると、いつも起こる話とは言えないからだ。従って、大人としては、交流戦など、何らかのコンソレーションを企画する姿勢を持つことが不可欠だと思う。今回の対応（協会の誰かが仕掛けたと思う）は、筆者としては高く評価するものであるが、実力差があってもきちんと最後まで打って下さった相手の選手の方たちにも感謝したいと思う。

8.2 第50期県王座戦（8月30日）

A級（5段以上）、B級（3、4段）、C級（初、2段）、D級（1級～10級）、E級（11級～25級）の5つのクラスが設けられている。各クラスに分かれ、総互先（A～C級）またはハンデ戦（D～E級）で覇を競う。会場は福井新聞社の風の森ホール、参加者は全部で71名であった。

筆者はA級に出場し、予選リーグで1勝後1敗してしまい、枠抜けできなかった（残念）。¹⁹⁾

4名または6名から成る各予選リーグから1人だけ枠抜けしてトーナメントに進出する方式（要は、「スイス方式」）自体は、昨年も採用されていた。今年もコロナ禍であることを考えると、出場者の拘束時間を短くできる本方式は、ベストの選択肢と思われる。ただ昨年は、開始前の説明に不備があったと見え、進行中にクレームが付いたのを覚えている。そこで筆者は競技の開始前、協会の説明担当の役員の人に、いちおう念を押させてもらった（クレームなしで順調に終了して良かった）。

9. 振り返って

囲碁の別名の1つに「手談（しゅだん）」というのがある。競技中の「手」だけでなく終わってからの熱い「談」が囲碁を嗜（たしな）む者にとって醍醐味であるのは間違いないが、コロナ対策はこうした接触全てを否定するから始末が悪い。そうは言っても、大会の運営に当たっては、人間側の姿勢そのものにまだ熟していない部分があるのは確かである。曰く、スイス方式の大会の予選リーグで1回負けたら帰ってしまうとか、遠隔対局でついカンニングして良い手を探してしまうとか、・・・

しかしながら、多くの機会を通じて（囲碁とは限らないが）ボードゲームを嗜（たしな）む人に悪人はいないという「通説」を確認できたのは喜びであった。これで子供さんたちに対する思いやりを忘れなければ、万全と思う。諸兄諸姉の奮闘を期待しつつ、筆を擱く。

謝 辞

本稿は、当初書く予定だった原稿のための取材が叶わず、急遽、別の内容の原稿を短時間で書き上げたものです。幾多の貴重な情報を迅速に提供していただいた、福井県囲碁協会の役員の方々の皆さま、並びに、福井新聞社の丸山洋美さん、日刊県民福井の西前庄治さん、日本棋院福井県支部連合会の宇野幸巳さんに感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 高橋一郎, 2019年, 福井県と囲碁(1) 福井県アマ囲碁最強位戦について, 福井大学地域環境教育センター研究紀要, 26巻, p.99-116。
- 2) 福井新聞, 2020年翌日付け紙面。
- 3) 特別企画「新型コロナウイルス禍の音楽界～その“現状”と“これから”」, 2020年, 音楽現代, 50巻, p.79-93。
- 4) 「若越烏鷺春秋 日本棋院福井県支部連合会創立30周年記念誌」、日本棋院福井県支部連合会、2014年11月。
- 5) 福井県囲碁協会 FB (<https://www.facebook.com/FukuiIgo/>), 2020年同日付けレポート。
- 6) 日本棋院 HP (<https://www.nihonkiin.or.jp/>), 2020年同日付けレポート。
- 7) 福井県囲碁協会 FB (<https://www.facebook.com/FukuiIgo/>), 2020年3月23日付けレポート。
- 8) 福井新聞, 2020年3月2日&3日付け紙面。
- 9) 福井新聞, 2020年同日付け電子版。
- 10) 福井新聞, 2020年同日付け紙面。
- 11) 福井新聞, 2020年4月23日付け紙面。
- 12) 福井新聞, 2020年7月31日付け電子版。
- 13) 福井県囲碁協会 FB (<https://www.facebook.com/FukuiIgo/>), 2020年6月1日付けレポート。
- 14) 日本棋院福井県支部連合会総会(2020年7月19日)資料。
- 15) 福井新聞, 2020年7月14日付け紙面。
- 16) 福井新聞, 2020年7月27日付け紙面。
- 17) 福井新聞, 2020年8月10日付け紙面。
- 18) 福井新聞, 2020年8月16日付け紙面。
- 19) 福井新聞, 2020年8月31日付け紙面。

